

1. 研究活動

展覧会キュレーション 「大名古屋電腦博覧会2015」	2015. 7	名古屋市民ギャラリー矢田	愛知県内の5つの美術系大学の学生、院生、OB、OGによるメディアデザイン/メディアアートの選抜展に企画運営委員として参加した。企画全体に関わるとともに、名古屋芸術大学展示部分のディレクションを担当した。
展覧会評 「大名古屋電腦博覧会2015」	2015. 9	『Ble』（名古屋芸術大学アート&デザインセンターニュース）Vol. 43 p. 3	「大名古屋電腦博覧会2015」（名古屋市民ギャラリー矢田で開催）に関する展覧会評論を執筆し、若い世代の作家によるメディアアートの動向に関して、「視線」をテーマとするインタラクティブ作品等を例にあげて論じた。
第6回さらりアート展（審査員）	2015. 11	パレア若狭（福井県若狭町）	障害を持つ人や特別な支援を必要とする人や児童、生徒たちによる美術作品展の審査員を担当した。
（学術論文等）単著 イメージと物質の可塑性について—映像表現の中で描出される画像と物語・その構造—	2016. 2	名古屋芸術大学 教職センター紀要第3号 pp. 77-86	描写行為や、物質の変形プロセスをモチーフにした映像表現の実例を挙げ、その「企画、構成、演出」について分析した。同時に各作品が企画の意図を受けて「撮影、編集、合成、加工」に関してどのような工夫をおこなっているのか、シークエンスやカットの具体例をあげながら分析した。また「鑑賞」に関しては、単に主観的な視点にとどまらず、各シークエンスの相対的な関係に基づく編集等の効果について解説した。
（学術論文等）単著 「描写のメディア」と「投影のメディア」—映像表現の黎明から現代のメディアアートに到る表現の変容—	2016. 3	名古屋芸術大学 教職センター紀要第4号 pp. 283-289	映像の歴史と、その前史となる絵画の歴史とを対比しながら、それぞれを「投影のメディア」と「描写のメディア」と定義付け、その文脈において写真、映画、ビデオを経て現在のメディアアートに到る変容過程を系統別文脈（①上映形式、②色光の効果とその複合的機能、③物語性と編集の効果、④記録的要素と現象的要素）に分類し、各文脈毎に論じた。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目名 映像メディア表現		
□前期 ◆後期		
教職科目「映像メディア表現（デザイン）」の授業において、映像表現の多様な側面を理解できるように、①メディアリテラシー、②黎明期の映像表現、③音と映像、④映像におけるビジュアル・デザイン、⑤撮影、⑥脚本と脚色、⑦多様なメディアと映像の関係の各項目に分類し解説した。	①メディアリテラシー、②黎明期の映像表現、③音と映像、④映像におけるビジュアル・デザイン、⑤撮影、⑥脚本と脚色、⑦多様なメディアと映像の関係に関して、各項目ごとに、テキストと画像によるスライド教材を制作した。	

3. 学会等および社会における主な活動